




論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

甲・乙	氏名	濱口 俊一
学位論文名	Validation of IPAG Questionnaire for Chronic Obstructive Pulmonary Disease in Shimane Prefecture	
学位論文審査委員	主査	川畑 茂 
	副査	岩下 義明 
	副査	山本 寛斉 

論文審査の結果の要旨

慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断にはスパイロメトリーによる気流制限の存在を証明する必要があるが、一般医院ではスパイロメトリーが普及しておらず、COPDが見過ごされている可能性がある。そのためスパイロメトリーを使用しない、問診表でのCOPDスクリーニングが注目されている。申請者らは、欧米で主に用いられているCOPD診断質問票IPAG（International Primary Care Airways Group）が日本人でも有用か否かの検証、そしてさらに有用なCOPD診断質問票の開発を目的に研究を行った。島根県の一般医院を訪れた患者で、40歳以上で活動性の呼吸器疾患がなく、COPDと診断されていない方々を対象とした。IPAG質問票ならびに本研究独自の質問項目を加えCOPDに関連した症状の問診を行い、同時にスパイロメトリーを行い、COPDの有無を診断した。

適格対象者の842人のうち、109人がスパイロメトリーで閉塞性換気障害を認めCOPDと診断された（有病率は12.9%）。IPAG質問票を用いたCOPD診断の感度は96.3%と高値であったが、特異度が28.8%と低値であった（欧米の特異度は77.0%）。多重ロジスティック回帰分析の結果、本研究独自の質問項目である「労作時呼吸困難の有無」が、COPDの検出に有用であることが判明した。そこで、①オリジナルのIPAG質問票と②「労作時呼吸困難の有無」を追加したModified IPAG質問票をAUC-ROCで比較したところ、Modified IPAG質問票でAUCが高値であった（AUC-ROC 0.778 vs 0.786）。Modified IPAG質問票が、高齢日本人のCOPD症例のスクリーニングに有益であることが判明した。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は、COPDスクリーニングにおいてModified IPAG質問票の有用性を証明した。そして現在、Modified IPAG質問票は実地医療で用いられており、臨床的に有用な研究を行った。審査会での質疑応答から、今後のindependent researcherとしての実力が十分に備わっていると考えられ、学位授与に値すると判断した。（主査：川畑 茂）

申請者は、自身の臨床経験からCOPDの早期発見目的に、簡易にスクリーニングできる問診項目が必要であると考へ、呼吸器内科を専門としない地域の医療機関において、IPAG質問項目に独自の質問項目を付け加えて調査を行った。申請者らの提案するmodified IPAGはIPAGよりも高いAUC-ROCを示した。自身の臨床的疑問に基づきCOPD早期発見に資する質問項目を提案しており博士号授与に値すると判断した。（副査：岩下 義明）

申請者は欧米で用いられているCOPD診断質問票IPAGの日本人での有用性の評価と、更に有用なCOPD診断質問票の開発を目的に、島根県内の一般医院を訪れた患者を対象に比較的大規模な臨床研究を行った。IPAG質問票によるCOPD診断は特異度が低値であったが、本研究独自の「労作時呼吸困難の有無」を加えたModified IPAGはIPAGよりも優れたAUC-ROCを示した。質疑応答での関連知識も豊富であり、医学博士に値すると判断した。（副査：山本 寛斉）

（備考）要旨は、それぞれ400字程度とする。